

第3回群馬県災害時の避難対策に係る検討会議 議事要旨

1 日 時

令和3年2月26日（金）10:00～11:20（リモート開催）

2 出席者

- ・外部有識者
片田委員、金井委員、阪本委員、榛沢委員
- ・市町村防災担当部課（室）（18市町村）
- ・県関係部課
- ・県行政県税事務所（オブザーバー）
- ・外部関係機関（オブザーバー）
前橋地方气象台、陸上自衛隊第12旅団、社会福祉法人群馬県社会福祉協議会、
一般社団法人群馬県建設業協会

3 議 事

- ・「災害時における避難の基本的考え方」（案）について

4 議事要旨

各委員よりいただいた主なご意見は以下のとおり

<避難の選択肢を多様に>

- ・現在、コロナ禍ということもあり、分散避難の必要性は3密対策につながるなど、広く社会で認識されている。これを契機に、自然災害時の避難において、分散避難を積極的に推進していくべき。
- ・県民に対しては、自分に適した避難方法を考えていただくため、県民との意思疎通を図り、分散避難の意識を広く定着させていく必要がある。
- ・広域的に避難する場合には、県有施設を活用することも重要だが、市町村間で連携し、その施設を融通し合うしくみを構築することが非常に重要である。

<避難所生活の質を向上する>

- ・避難所において、3日以内に、ベッド、食事、トイレを準備するというのは、県レベルでは非常に先進的な取組である。
- ・避難所運営には、外国人や性的マイノリティの方など、多様性に配慮することが重要である。

<自然災害にオール群馬で立ち向かう>

- ・自然災害に対して、行政だけでなく、民間企業、NPOなども含め、オール群馬で立ち向かうための、群馬避難総合対策チーム（仮称）を立ち上げることが示されているが、このチームがこれまでの行政主導の防災から、県民を巻き込んでいくことが必要である。
- ・今後5年間で対策を進めていく上で、5年後に実績評価ができるように、ある程度数値目標を定めた方がよい。特に避難先や物資をどれだけ用意できたかということは数字で把握できるので、指標化してはどうか。また、行政側だけでなく、住民にもこれだけ定着したといった指標があるとよい。
- ・群馬県民の自然災害に対する安全神話及び行政依存の意識が高いことを踏まえると、この避難の基本的な考え方を、いかにして県民と共有していくかが課題であり、県民自身が納得・共感し、これらの活動に参加してくれるような環境を整えることが重要。

以上